

平成21(2009)年2月21日第121号

学校だより

ヒューストン日本語補習校

Japanese Educational Institute of Houston

12651 Briar Forest Drive, Suite 105, Houston, Texas 77077

Tel. 281-531-6743 / Fax. 281-531-6795 (事務局 火~金曜日)

Tel. / Fax. 713-973-0659 (職員室 土曜日のみ)

E-mail: jlssh@jeihouston.org Home Page: www.jeihouston.org

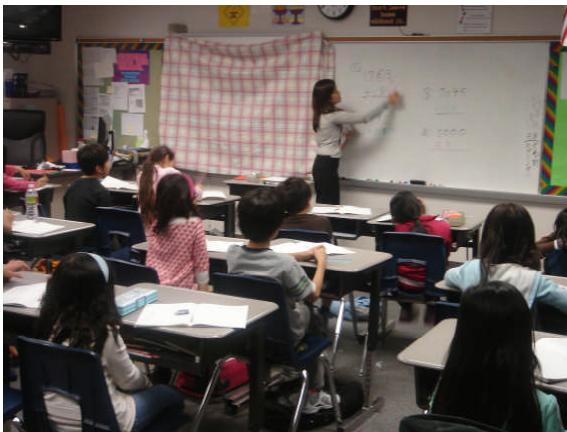
授業参観

2月7日、14日の2日にわたって、授業を参観していただきました。お子様の成長の様子をニコニコしながらカメラやビデオに収める多くの保護者の姿を見かけました。とても微笑ましい光景でした。カメラやビデオ越しから、昨年5月に実施された授業参観でのお子様の様子と比べ、一回り大きくなった体と学習面での成長などがはっきりとうかがえたのではないのでしょうか。

以下は、各学年を巡回しての雑感です。

幼稚園児は、ひらがなやカタカナを、日本の文化であるカルタやビンゴゲームなどの遊びを通して、また、リズム感のある音楽を通して慣れ親しませる様子がわかりました。担任の問いかけに対し、お父さんやお母さんの前で恥ずかしそうに反応しながら、それでもしっかりと応答するかわいい子どもたちの姿が印象的でした。あと1ヶ月半で小学部入学です。入学準備が着々とできているように感じました。

小学部低学年では、教科書で基礎を学ぶ姿を見ることができました。



小学部2年B組の授業(TT)

小学部2年B組は、年度途中に人数が増えたために、Team Teachingという複数教員が協力して行う授業方式をとりました。

もともと(約50年ほど前)、アメリカ合衆国の小・中学校において、教育内容の高度化と教育方法の多様化に伴い、リーダーの教師を中心として、何人かの教師たちが協力組織をつくり、それぞれの能力を生かし授業にあたるという方式が盛んに試みられるようになりました。このような教師の協力による

授業方式がティームティーチングと呼ばれるものです。日本では、算数・数学、理科などの特定教科で実施することが多かったのですが、教職員の意識が低調に終わったために、残念ながら定着しなかったという記憶があります。

さて、この学級では、児童の個人差に応じる指導をいっそう充実させることを大きなねらいとし、担任の藤滝先生と恩田先生が協力して授業に取り組んでいます。14日の参観授業では、恩田先生が授業の導入を行い、展開を藤滝先生が行ったようです。それぞれが“主”で授業を行っているときには、もう一人が“副”となって机間巡視をしながら子どもたちの理解度によってアドバイスを与えます。アドバイスが一人ひとりに行き届くという点で、とても贅沢な授業方式であることがわかります。

日本の教育の歴史を振り返ってみると、きめ細かな教育を目指す目的で、1学級40人になりました。その後、国の行財政改革で、教員定数の見直しが図られていますが、現在のところ、まだ、“40人学級”のままです。ただし、教育委員会の裁量で、35人や30人の少人数学級を設置できるようになっています。このため、財政が豊かな都道府県や市区町村では、子どもたちにきめ細かな指導ができるよう、独自で教員を採用しています。

TTで子どもたちに接する先生や2年B組の子どもたちの様子から、日本の教員定数や1学級の人数のことを思い出しました。

小学部高学年の多くは、グループ研究の発表や個人で調べてきたことを“まとめ”という形で発表していました。

この時期の教科書の学習内容が「聞くこと・話すこと」を重点目標とした単元が多かったのかもしれない。



発表は、授業で修得した成果を公の場で披露するという目的があるため、教員側からすれば、子どもたちの発表の様子を見ることで、ふだんの指導「聞くこと・話すこと」がどれだけできているかがよくわかります。発表する人は、部屋の大きさに応じた適当な声量で、わかりやすくはっきりと伝えなければなりません。そのためには、発表原稿をあ

る程度暗記させて、スピーチコンテストに近い状況まで訓練しておくことが理想です。柔軟な頭の持ち主である子どもたちにとっては、そんなに難しいことではありません。

「発表原稿をできるだけ覚えてきたほうが良い。」このような曖昧な指示では、子どもたちは覚えてきません。発表の仕方は工夫させているようですが、下を向き、声が小さくなって原稿の棒読みのようになってしまいがちです。

補習校の高学年になると低学年以上に国語力の差が出てきます。能力が高い子どもには高い目標を設定し、「必ず覚えてきて、原稿なしで発表しましょう。あなたならできます。」の一言が、“個を伸ばす”きっかけになり、“伝える力”を養うことにも結びついてきます。高い目標が達成できれば、すなわち、原稿なしで発表できれば、褒め称える。その評価が学級の中でその子どもを“生かす”ことにつながってきます。また、学年相当の力がついていない子どもにも、原稿なしの発表は自信をつけさせる絶好の機会であるということを感じました。

教員が子どもに“力をつける”ということは、子どもに“自信を持たせる”“もっとやる気を起こさせる”ということかもしれません。子どもたちが国語力を伸ばす機会は平等にあり、その機会を見つけて、一言声をかけることができるような教師でありつづけたいと自分自身を振り返ることができた高学年授業の参観でした。

その他、欠席者の作文を読むことで、欠席者を授業に参加させ、“和”を感じることができた学級がありました。学級担任の温かさを感じました。また、ある学級は児童の活動に保護者を巻き込み、とても一体感がありました。

中学部はどのような様子だったのでしょか。

中学部三年数学科の授業風景



ある保護者との会話で、「親が見に来ているので、いつもの3倍は静かに授業を受けているかもしれない。」と冗談が聞かれるほど落ち着いて学習に取り組んでいました。(本文と写真とは関係ありません。)

北米には80を超える補習授業校があります。そ

中でも大規模補習校である本校には、将来の日本を担い、国際社会で活躍していく金の卵がすくすくと成長していることを私は知っています。「ヒューストン日本語補習校の出身者は、素晴らしい人柄だけでなく、学業成績も優秀だ。流石だ。」と評判になるくらいになってほしいと思います。

「補習校に通ってれば、国語力や教科の基礎基本が身につく。」と言われます。しかし、それにはそれなりの準備が必要です。ある家庭では日本語の言語環境を整え、時間が許す限り、通信教育などでより力を定着させようとしていることを聞きました。

私よりはるかに大きくなった金の卵である子どもたちの後ろ姿を見ながら、「この地で学んでいることを誇りに思い、自信を持ってこれからも学習してほしい。」と強く感じた中学部の授業参観でした。

＜パトロール当番についての確認事項＞

保護者の皆さまには貴重な時間をいただき、子どもたちの安全確保にご尽力くださりまして、ありがとうございます。これからもパトロール活動が円滑に行われますよう、下記の事項にご注意していただきますようお願いいたします。

1. 転出の際には、当番表配布前の作成時に間に合うように、時間に余裕をもってパトロール担当役員に連絡してください。
2. 当番表で示された日時のご都合がつかない際には、責任を持って代わりの方を見つけてください。
3. 交代の方が決まりましたら、必ずそのグループのパトロールリーダーさんに変更の旨をお伝えください。
4. どうしても交代の方が見つからない場合は、リーダーさんを通じて連絡係に相談してください。

◆パトロール当番予定表 2月28日◆

～よろしくお願ひします～

	学年	順位	児童生徒氏名
★AM1	リーダー	中2	9 岡崎 太士朗
			2 10 佐野 圭輔
			3 11 村上 幸弘
			4 12 堀 雄希
			5 13 太田 倫未
			6 14 寺田 優理
			7 15 鈴木 みづほ
★PM1	リーダー	中3	1 星子 咲
			2 2 山田 剛
			3 3 奥原 京平
			4 4 藤井 歩
			5 8 矢部 沙英
			6 9 伊勢 卓矢
			7 10 西川 実里